

研究ノート

学生による市民メディア活動

— 「みよしコミュニティニュース」5年間の取り組み—

Tokai Gakuen University Media Students' Citizen Media Activities :
An Ongoing "Miyoshi Community News" Project

武市久美*

Kumi TAKEICHI

キーワード：市民メディア活動，地域連携，社会教育，メディア・リテラシー

Keyword: Citizen Media Activities, Regional Cooperation, Social Education, Media Literacy

要約

本報告では、筆者のゼミ生が地域のラジオ局で取り組んでいる「みよしコミュニティニュース」の活動について述べる。大学、行政そして企業が連携して行っている学生によるメディア活動は今年で丸5年となる。学生たちは、地域社会への理解を深め、自身が見聞きした事柄を捉え、情報の取捨選択をして責任ある立場で情報発信する体験をした。

この活動を通じて、学生たちは音声メディアを利用したコミュニケーションの難しさに気づき、発信力、表現力を磨いた。さらに、判断力を鍛え、コミュニケーション力を高め、他者と協働する力を養い、加えて、社会としての人基礎力を身に付けるなどの可能性が示された。

Abstract:

My seminar students are working at a broadcasting station in a local community. This paper is a report on the activities of "MCN". The students have set up media activities with the cooperation of the university, government and enterprises over the past 5 years. The students deepened their understanding of the local communities. They were responsible for their work sending out information after choosing from what they had seen and heard.

There were 2 main findings. : The students
1. acquired good broadcasting ability and expression after noticing the difficulty of communicating using only voice media.

* 東海学園大学人文学部人文学科

2. acquired good judgement, communication skills and collaboration with others, as well as the fundamental skills necessary for members of society.

1 背景と目的

日本において2008年にアップル社のiphoneが発売されて以降、学生を中心とする若年層においてはスマートフォンを利用し、ツイッター、インスタグラムやLINEというようなSNS（ソーシャルメディアネットワーク）上での情報交換が主流になっている。

受け手である大衆に一方向的に情報伝達をするテレビや新聞のような「マスメディア」に対し、スマートフォンをはじめとする「パーソナルメディア¹」は、個から個への情報交換に始まり、インターネットを利用して双方向性で繋がり網の目のように広がる無限の情報交換が可能である。いつでも簡単に手元に取り出すことができるこの小さな機器を指先で操作すれば誰でも情報の発信者になることができる手軽さの一方で、知識や情報モラルの欠乏・未熟さから若年層を中心にパーソナルメディアを利用したやりとりにおけるトラブルも見られる（一般社会法人インターネット協会, 2016）（総務省, 2017）。メディア環境が整備され、誰でも情報の送り手になることが出来るようになった一方で、情報発信者としての資質や能力を育成するための学びは教育現場において未だ十分ではないと考える。

また、アメリカでは1984年ケーブル通信政策法（Cable Communications Policy Act of 1984）により地域住民が自分たちで企画・制作した番組をマスメディアのチャンネルを通じて自由に放送出来るパブリック・アクセスの権利が保障されている。住民自身が番組の企画・制作を手がけることで、住民の手による地域情報化の推進や地域社会の活性化に繋がると考えられている。地域メディアがより地域社会に貢献していくためには、マスメディア側だけでなく視聴者・聴取者である市民も共にメディアと地域社会との新たな関わりを考え、地域社会の発展を支える放送メディアを築いていく必要がある（野村, 2003）。日本国内でも2000年代以降パブリック・アクセスの活動が盛んになってきたが、市民メディア団体が抱える課題の1つとして人材育成がある。メディアを活用してこのような地域でのコミュニケーションをデザインできる人材育成も教育現場に求められる（妹尾, 2013）。

本研究では、学生たちがマスメディアと実際に関わり、自らがマスメディア情報の伝え手となる市民メディア活動の概要について報告し、活動を通じた学生の学びについて考察する。

2 みよしコミュニティニュース

2.1 概要

みよしコミュニティニュースは、愛知県豊田市・みよし市を放送エリアとするコミュニティFM局「エフエムとよた²」が、毎週土曜日の午後15:00～18:30に生放送している「モミアゲラジ

オ」という番組の中で、15:50～16:00の10分間に、学生たちがみよし市の市政情報、市内イベントなどをスタジオで生レポートするコーナーである。本学三好キャンパス最寄り駅である愛知県みよし市三好ヶ丘駅前のカリヨンハウス特設スタジオにて、毎週土曜日の午後公開生放送している。

活動のきっかけは、本学と包括協定を結んでいる「みよし市」が、市の北の玄関口である三好ヶ丘駅周辺の賑わいの創出のために、駅前の市の施設であるカリヨンハウスの利活用を目的に、カリヨンハウスからの情報発信を考えたことである。そのため、みよし市にキャンパスがある本学³、みよし市を放送エリアとするエフエムとよたと協力し、きめ細やかな地域情報を学生の目線で発信する番組を

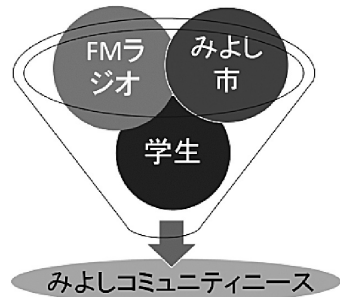


図1 みよしコミュニティニュース

制作し、市政に対する市民の関心と信頼を高めることを目指した。さらに「エフエムとよた」は、コミュニティFMといわれる従来の広域放送や県域放送より放送対象地域が狭い限られたエリアで流れる放送局である。「地域密着」「市民参加」「防災および災害時の放送」を目指すコミュニティFM局（加藤，2005）（北郷，2013）（橋本，2013）（村上，2013）にとって、学生たちがレポーターとして地域に飛び出して地域の人々と関わりながら共に番組を作ることは、メディアの送り手と受け手という垣根を越えた協働の地域活動として「地域コミュニティ」の形成につながる可能性を見出していた。

これら2者と本学が連携し（図1）、みよし市の地域情報を学生が取材し、学生自らスタジオに生出演してレポートする「みよしコミュニティニュース」が2013年11月にスタートした。現在はメディアを専攻する筆者のゼミに所属する25名の3.4年生が3人1組でグループを組み、持ち回りで事前取材とスタジオでの生放送を担当している。

2.2 放送までの流れ

放送までの主な流れを述べる（表1）。まずスタジオ出演本番の前週の木曜日に、市の担当者とラジオ局ディレクターが週末に行われる市内イベントについて調整をした後、金曜日にディレクターと学生がメールで取材打ち合わせを行う。週末土日のどちらかに、学生がディレクターと共に市内イベントを取材し、イベント主催者・参加者に対してインタビュー収録を行う。その後、本番の週の水曜日までに大学内のスタジオでインタビュー音源を編集し、併せてスタジオ出演で話すための台本を作成してラジオ局に提出する。内容をラジオ局ディレクターが確認した後、本番の土曜日は学生が本番1時間前にスタジオに集合してディレクターおよび番組パーソナリティと打ち合わせ・読み合わせを行い、生放送に参加するという流れである（図2）。

3 放送内容

みよしコミュニティニュースは2018年秋で丸5年が経過し、放送は250回を数える。現在までの放送内容は以下の通りである(表2)。市主催の行事、市内で行われる展示会や体験会、季節のイベント、発表会、スポーツイベント、福祉施設や幼稚園・保育園のイベントなど放送内容は多様である。

表2 現在までの放送内容

2013年度	
11月30日	カリヨンハウスの紹介(オープニングセレモニー)
12月7日	ほっとほっと農園農業体験イベント
12月14日	クリスマスイミネーション
12月21日	クリスマスお菓子作り
1月4日	カリヨンハウス子育て広場
1月11日	市内イベント
1月18日	中部小学校歯科指導
1月25日	市内イベント
2月1日	市内イベント
2月8日	トヨタ自動車との防災協定締結
2月15日	給食センターイベント
2月22日	サンアートありがとうコンサート
3月1日	市内イベント
3月8日	ベル三好幼稚園「剣道おさらい会」
3月15日	福祉センターイベント
3月22日	サンアートロビーコンサート
3月29日	福祉センターイベント
2014年度	
4月5日	カリヨンハウスF1ビジターセンター
4月12日	みよしサンアート
4月19日	ほりこし保育園入園歓迎会
4月26日	ロビーコンサート
5月3日	カヌースプリングスプリント～開会式～
5月10日	みよしもりそらプレーパーク
5月17日	市民茶会
5月24日	水防訓練
5月31日	ごみひろい
6月7日	カラーリング交流会
6月14日	小学生社会科見学会
6月21日	ゆかた着付無料講座
6月28日	リトミック教室
7月5日	ジャパンパラ水泳競技大会出場選手激励会
7月12日	いわき市役所表敬訪問
7月19日	薬物乱用防止教室
7月26日	みよし市老人クラブ連合会～祭りの踊り勉強会～
8月2日	第14回木あそび広場
8月9日	自由研究お助け団
8月16日	サンアート探検隊
8月23日	テニス激励会
8月30日	第22回三好いいじゃん祭り
9月6日	子どもたちのお話会～読み聞かせ～
9月13日	囲碁・将棋大会
9月20日	鼓童ワークショップ
9月27日	世代交流サッカー健康増進教室
10月4日	赤い羽根募金
10月11日	認知症サポーター養成講座
10月18日	コロナバス市訪問団 表敬訪問
10月25日	一般開放
11月1日	元気になる食事会
11月8日	産業フェスタみよし2014
11月15日	陶芸教室
11月22日	「美しい日本語の話し方」
11月29日	「石川家体験講座」
12月6日	「みよし音楽祭第16回市民合唱交流会」
12月13日	「イルミネーションライティングセレモニー」
12月20日	三好桃山幼稚園・桃山祭(学芸会)
12月27日	もちつき大会
1月10日	人権擁護委員委嘱状交付式
1月17日	「防災セミナー」
1月24日	「生涯学習講座:癒しの時間 陶芸」
1月31日	「新春みよし市マラソン 駅伝大会」
2月7日	「名古屋フィルハーモニー交響楽団のワークショップ」
2月14日	「こころの健康講演会」
2月21日	「市民茶会」
2月28日	「野菜作り講習会」
3月7日	「みよし少年少女合唱団定期演奏会」
3月14日	生涯学習講座「季節の和菓子作り」
3月21日	「立志式」
3月28日	みよし市民病院 ピアノ弾き始め式

2015年度

4月4日	U-12グランパスカップ	10月3日	三好助け合いチケットじゃんじゃん
4月11日	みよし市戦没者追悼式	10月10日	寄席伝統芸能講座
4月18日	シルバー直売会	10月17日	サンアートオータムフェスタ2015
4月25日	野菜作り講習会	10月24日	名古屋刑務所 矯正展
5月2日	2015スプリングスプリントカヌー競技会	10月31日	地域型スポーツ設立準備会
5月9日	GORIN ENTERTAINMENT	11月7日	産業フェスタみよし2015
5月16日	美しい日本語の話し方教室	11月14日	町なかギャラリー展示
5月23日	水防訓練	11月21日	あゆみ祭
5月30日	みよし市学習交流センター	11月28日	軽トラマルシェ
6月6日	田植え体験会	12月5日	レクリエーションスポーツフェスタ
6月13日	みよし市交流じゃんじゃん会	12月12日	愛知駅伝
6月20日	黒笹区ウォークラリー	12月19日	MBDL
6月27日	少年の主張みよし市大会	12月26日	みよしいいじゃん大学
7月4日	ふれあいバード	1月9日	農援ネットみよし 就農者育成コース
7月11日	安立荘サマーフェスタ2015	1月16日	みよし市成人式
7月18日	江戸時代から昭和初期の洗濯体験	1月23日	青バト贈呈式
7月25日	昆虫展	1月30日	ひな人形展
8月1日	あゆみ会福祉実践居室 基礎教室	2月5日	新春みよし市マラソン駅伝大会
8月8日	三好池まつり	2月13日	三好助け合いチケットじゃんじゃん
8月15日	サンアート探検隊	2月19日	キラボンダンス講座
8月22日	運動チャレンジ教室	2月27日	布草履をつくろう
8月29日	三好大提灯まつり	3月6日	みよし市イベント
9月5日	金管楽器の演奏会	3月12日	みよし市生涯学習発表会
9月12日	市民のつどい	3月19日	ガールスカウトと一緒に作って楽しもう
9月19日	ふれあいフェスタ	3月26日	みよし盆栽展
9月26日	みよしいいじゃん大学本格デジタルカメラ講座		

2016年度

4月2日	農援ネット修了式	10月1日	みよし市中学生カヌー大会
4月9日	三好池桜マラソン	10月8日	南天九猿をつくろう
4月16日	第22回東学祭	10月15日	みよしいいじゃん大学寄席伝統芸能演芸
4月23日	施設の見学会、説明会	10月22日	Next30.三好中70年の伝統に学ぶ会
4月30日	スプリントカヌー競技大会	10月29日	ハロウィンキャンドルナイト
5月7日	サッカー教室	11月5日	さんさんフェスティバル&10周年記念式典
5月14日	サンアートフェスタ2016	11月12日	産業フェスタみよし2016
5月21日	春の芸能文化展	11月19日	森と緑づくり体感ツアー
5月28日	平成28年度みよし市消防操法大会	11月26日	小中学生 夢の作品展
6月4日	第9回カローリング交流会	12月3日	みよし音楽祭第18回市民合唱交流会
6月11日	東山区2分の1成人式「将来の夢発表会」	12月10日	第11回愛知県市町村対抗駅伝大会
6月18日	布草履をつくろう	12月17日	少年野球交流会
6月25日	少年の主張	12月24日	みよしレクリエーションスポーツフェスタ
7月2日	図書館の内覧会	1月7日	石川家住宅 冬支度
7月9日	サンライフ開館記念式典	1月14日	成人式
7月16日	ハワイアンクラブ	1月21日	特別支援学校スポーツ体験会
7月23日	カヌー	1月28日	ぐるーぷびつくり箱による親子で楽しむ人形劇
7月30日	福祉あゆみ会実践講座	2月4日	みよし市マラソン駅伝大会
8月6日	石川家住宅納涼まつり	2月11日	市民茶会
8月13日	三好池花火大会	2月18日	三好助け合いチケットじゃんじゃん交流会
8月20日	みよし市カヌーポロ大会	2月25日	三好スポーツ少年交流大会
8月27日	三好いいじゃん祭り	3月4日	ボランティア特別講演会
9月3日	みよしEポート交流会	3月11日	生涯学習発表会
9月10日	市民のつどい	3月18日	ボランティア特別講演会
9月17日	ふれあいフェスタ	3月25日	寄席伝統演芸講座
9月24日	三好市総合福祉フェスタ		

2017年度

4月1日	U-12グランパスカップ	9月30日	サンライブ読み聞かせ
4月8日	三好消防団任命式	10月7日	ほら貝を吹いてみよう
4月15日	水防訓練	10月14日	みよし市市民体育祭
4月22日	三好ウォーキング協会	10月21日	ハスの実飾りを作ろう
4月29日	第22回スプリントカヌー競技大会	10月28日	名古屋刑務所 矯正展
5月6日	第34回みよし市長杯争奪中学校総合体育大会	11月4日	みよし市行政調査報告会
5月13日	サンアートフェスタ	11月11日	産業フェスタみよし2017
5月20日	みよし市水防訓練	11月18日	あゆみ祭り
5月27日	オオキンケイギク駆除	11月25日	平成29年度みよし市中学生夢の作品展
6月3日	篠笛の会 一期一会	12月2日	みよし音楽祭
6月10日	健康受信向上キャンペーン	12月9日	愛知駅伝
6月17日	2分の1成人式	12月16日	Vチャレンジリーグ
6月24日	少年主張みよし市大会	12月23日	みよしスポーツフェスタ2017
7月1日	みよし市球技大会	1月6日	みよし市卓球選手大会
7月8日	カヌー競技大会	1月13日	みよし市成人式
7月15日	子ども科学教室	1月20日	豊田市警察署「110番の日」キャンペーン
7月22日	ぶらりみよし軽トラマルシェ	1月27日	ファミリーサポートセンター交流会
7月29日	さんさん市場10周年	2月3日	防災講演会
8月5日	カヌーボロに親しむ集い	2月10日	もっとう！「お父さん」を楽しもう2017
8月12日	三好池花火大会	2月17日	第3回自然観察会
8月19日	三好大提灯まつり	2月24日	回想法のつどい2018
8月26日	三好大提灯まつり	3月3日	設立33周年記念ボランティア特別講演会
9月2日	みよし市防災連絡	3月10日	上房フェスタ
9月9日	市民の集い	3月17日	第3回石川家住宅クイズラリー
9月16日	みよし市郷土芸能伝承活動発表会	3月24日	みよし市VS土別市 少年野球合同試合
9月23日	みよし市総合福祉フェスタ	3月31日	読書講演会

2018年度

4月7日	第35回三好池桜マラソン	7月7日	中学生カヌースプリント大会
4月14日	平成30年度農業研修入講式	7月14日	サンライブ 子どもカヌー教室
4月21日	みよし市ウォーキング教会総会	7月21日	愛知県カヌー大会
4月28日	2018スプリングスプリントカヌー競技大会	7月28日	ぶらり・みよし軽トラ☆マルシェ
5月5日	第35回みよし市長杯争奪中学校総合体育大会	8月4日	第11回カローリング交流会
5月12日	サンアートフェスタ	8月11日	みよし池花火大会
5月19日	三好マラソン	8月18日	森林体験親子バスツアー
5月26日	消防操法大会	8月25日	みよし池大提灯まつり
6月2日	オオキンケイギク駆除活動	9月1日	みよし市防災訓練
6月9日	保田ヶ池カップカヌー大会	9月8日	市民のつどい
6月16日	みよし市安全なまちづくり推進大会	9月15日	みよしふれあいフェスタ
6月23日	みよし市少年の主張	9月22日	みよし市総合福祉フェスタ
6月30日	みよし市高齢者交通安全実践教室	9月29日	名古屋グランパスサッカー教室

4 成果と課題

4.1 学生の声から

学生たちにみよしコミュニティースの活動を通じて感じたところを尋ねたところ、以下の回答があった。

- ・市ではこんなにたくさんのイベントが行われているんだということ、主催者や参加している人たちの思いなど普段の大学生活だけでは知ることができなかった世の中のしくみを知ったような気がする。地元の人たちがこうやって盛り上げているんだな、とか社会の様々なことを見聞きできたことはすごくよかったなと。

- ・インタビューに答えてくれる人を見つけるためにはじっとしてはどうしようもない、自分から動かないと。何が聞きたいのか頭で整理してからインタビューしないと答える人も困るし。答

える人にとっては学生とかプロとか関係ないから。

・ラジオは音声メディアであり、映像や文字などで補足できる情報がない分、OAで話すときには具体的だけれども複雑すぎないしゃべりをしなくてははいけない。やはり言葉だけで伝える難しさを感じた。

・自分が取材した内容やそこで感じたことを原稿として文字で打ち込むときに自分の語彙力や表現力が足りないのか、十分でないと思ってしまうことがある。自分の体験したことをわかりやすく文章にして人にどう伝えるかの大切さを知った。

・取材先で聞き取りをするとき、相手が話しやすい雰囲気作りから、実際にどのように尋ねたらいいのか、話してくれる人任せにするのではなくて、話を引き出すためのインタビューする力や言葉遣いが大切だということ。音源を編集したり原稿を作成するときに膨大な量の情報からどう取捨選択するかという選球眼、思い切りのよさも大切だと感じた。

・放送は生放送なので、時間的な制約や突発的な変更があったり、思いがけない事態に対してどのように動くかという臨機応変な対応も必要になる。困ったときにはディレクターとかゼミの人とか、とにかくまわりに相談することが大事だと思う。

・2年の頃にラジオ見学に行ったときには、自分がラジオでしゃべるなんて絶対無理だと思っていたけど、〇〇さん（ラジオ局ディレクター）にいろいろ教えてもらってなんとか原稿とか作って初めて番組でしゃべった時は感動した。コーナーのときにうまく話せないときも□□さん（パーソナリティ）が盛り上げてくれるので番組らしくなるというか。一人じゃ番組は作れない。

・取材先やディレクター、パーソナリティと話をするとき、目上の方とのメールのやりとり、あいさつなどの最低限のマナーも教えてもらった。

地域に飛び込んで自らメディア活動をする中で、地域社会の成り立ちや文化を知り、自分たちの活動の意義について考え、その中で自身が積極的に動き情報発信する重みを意識して受け手に伝えていく経験をしたようである。また、ラジオという音声メディアゆえの「聴覚からの言葉」のみの言語表現の難しさに気づき、生放送で伝えたい話は何なのかを考えながら情報の取捨選択をし、音源の編集をして収録したインタビューをまとめ原稿を書くことで、自らの発信力と表現力を磨いた。さらに、じっくり考えて深めていくべきこと、方針を変えて切り替えて進めていくべきことなどの判断力の必要性を感じたようである。また、メディアと関わり責任ある立場でメディア活動をする中で、取材をする相手、ラジオ局のスタッフなど社会の様々な人と関わり、人に自分の考えを伝え他者の考えを知り互いに理解し合うためのコミュニケーション能力の必要性や、物事を作り上げていく協働の営みについて学んだようである。加えて、大学の外で「大人」と共に仕事をする中であいさつやお礼、取材先やスタッフへのメールや電話での連絡の仕方など、卒業後に社会に出たときに求められる常識や意識、知識、マナーといった社会人基礎力の学

びも示唆された（図3）。

4.2 アクティブ・ラーニングに向けて

2012年に文部科学省中央教育審議会の答申において初めて大学教育におけるアクティブ・ラーニングの推進が述べられた。その用語集でアクティブ・ラーニングとは「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等によっても取り入れられる」と説明されている（文部科学省，2012）。2014年12月には高校教育におけるアクティブ・ラーニングが言及され（文部科学省，2014）、2020年に全面实施される新学習指導要領には、アクティブ・ラーニングという言葉ではなく「主体的・対話的で深い学び」という表現で、小中学校でもその取り組みに向けた授業改善が行われることが書かれている。このように元々は大学教育で言及されてきた学習・指導方法である「アクティブ・ラーニング」から「主体的・対話的で深い学び」へ言葉は変わるが、校種を問わず「どんな力を身につけてほしいか」を考えた際に、知識教授型の教育だけではなく、新しいアイデアを形にする創造力、自ら考え行動する主体性などが大切である。

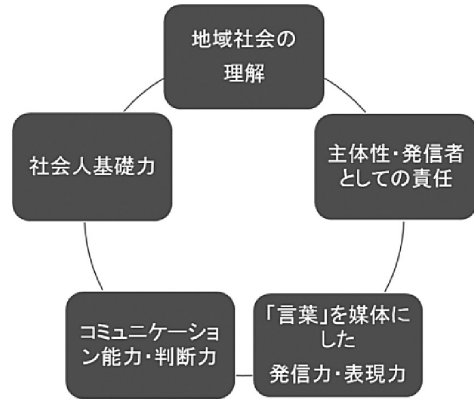


図3 活動を通じた学び

みよしコミュニティニュースへの取り組みは、学生たちが自分の目標を自分で見出して実践する主体性、多様な人々の考えを理解する多様性、チームを構成し協働する協働性を培う「アクティブ・ラーニング」「主体的・対話的で深い学び」と言えよう。

連携しているみよし市やラジオ局の関係者の方からも以下の評価をいただいている。

連携しているみよし市やラジオ局の関係者の方からも以下の評価をいただいている。

- ・ 学生さんたちが取材の場に出ると、若いエネルギーで場が華やいでいい。
- ・ 年配の方たちは自分の子どもや孫に話すように答える、また子どもたちはお兄さんお姉さんへじゃれつきながら、インタビューの敷居を下げしてくれる。プロの放送人で拾えない情報や言葉を自然と引き出す力を持っている。
- ・ 取材先の市民からも「学生さんたち頑張っていていいね」などの声をもらう。
- ・ 自分たち（ラジオ局スタッフ）が普段の仕事に出た時に、（学生が以前取材したことのある人達

に「今日は学生さんたちの取材じゃないの?」と残念がられることがある。

地域や社会とかかわりながら多くの学びに繋がる取り組みとして今後も継続していきたい。

引用文献

【論文】

- 加藤晴明 (2005) 「コミュニティ FM のアイデンティティ 地域・メディア・自己の連環をめぐるフィールド調査から」, 『社会情報学研究』 9 (1), pp27-39.
- 北郷裕美 (2013) 「災害時メディアとしてラジオが果たす役割 試論 -コミュニティ放送の事例を中心に-」, 『札幌大谷大学社会学部論集』 1, pp231-260.
- 妹尾克利 (2013) 「学校放送部によるメディア表現活動の教育効果に関する考察—高校放送部の映像制作活動を手がかりに—」, 『現代社会学研究』 第26巻, pp19-37.
- 橋本行史 (2013) 「地域活性学会コミュニティ FM と地域活性化」, 『地域活性学会研究大会論文集』 5, pp43-46.
- 村上和史 (2013) 「コミュニティの「ウチ」と「ソト」をつなぐコミュニティ FM -サイマル放送と「トランスローカル」-」, 『大阪大学日本学報』 32, pp147-163.

【Web】

- 一般社会法人 インターネット協会 (2016) 「東京子どもネット・ケータイヘルプデスク (こたエール)」平成27年度相談実績について
 < <http://www.iajapan.org/press/20160616-press.html> > (2018.9.18 アクセス)
- 総務省 (2012) 『青少年のインターネット・リテラシー指標』, 総合通信基盤局 .
 < http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban08_02000092.html >
 (2018.9.18 アクセス)
- (2017) 『インターネットトラブル事例集 (平成29年度版)』, 総合通信基盤局 .
 < http://www.soumu.go.jp/main_content/000522137.pdf > (2018.9.18 アクセス)
- 野村晶子 (2003) 『地域情報化施策に求められるパブリックアクセスの導入』, 『Business & Economic Review』 2003年03月号, 野村総研.
 < <https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=14111> > (2018.9.14 アクセス)
- 文部科学省 (2012) 『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申) 平成24年8月28日』, 中央教育審議会 .
 < http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm >
 (2018.9.20 アクセス)
- (2014) 『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～ (答申) 平成26年12月22日』, 中央教育審議会 .
 < http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afildfil/2015/01/14/1354191.pdf > (2018.9.20 アクセス)

注

- 1 「マスメディア」とは対照的に、「パーソナルメディア」は使い手が双方向な場で双方向参加することができる。
- 2 地元では「ラジオ・ラヴィート」の愛称で親しまれている。
 以下はみよしコミュニティニュースのタイムテーブルである。
 エフエムとよたホームページより抜粋
 < <http://www.loveat.co.jp/> > (2018.9.22 アクセス)

NOON	12:00	メガワールド Top Hits 10
	13:00	Feelings AKANE
	15:00	もとカズと美由が土曜の昼をアゲアゲに ～モミアゲラジオ～ もとカズ・美由
	15:50～16:00	みよしコミュニティニュース
	16:45～17:00	ひっくりカイル英会話
	18:05	部活紹介番組「部ラボ」(総集編)
	18:30	フェイバリットジャニーズ Chiemi
	19:00	JP TOP 20

- 3 本学とみよし市は、包括的な連携の下、教育研究、生涯学習、文化、スポーツ、まちづくりなどの分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、2013年12月に連携協定に関する包括協定締結が結ばれている。
 < http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/koho/topics/2010/1209_toukaigakuentonohoukatukyouteiteiketu-shiki.html > (2018.9.22 アクセス)

最後に、この活動を温かく見守り学生たちを指導して下さるみよし市、エフエムとよたの関係者の皆さまに感謝申し上げたい。また、この5年間休むことなくラジオ放送に参加してきた武市ゼミの学生たちの頑張りに心から拍手を送りたい。